

金副隊長こと金邦夫さんとの思い出



平成6(1994)年から平成25(2013)年迄の20年間奥多摩交番に山岳救助隊員として勤務された金邦夫さんが去る3月23日他界された。薫陶を受けた名人・達人観光ガイドのひとりとして、在りし日の副隊長との思い出を記し追悼の言葉とする。

機関誌『あびえす』の編集

今から20数年前、奥多摩ビジターセンター(OVC)で解説員のお手伝いをしていた頃、金さんから戴いた原稿を同VCの機関誌『あびえす』に載せるべく編集に関わらせて貰った。

現役の山岳救助隊副隊長の体験に基づき執筆されたものを内容に変更を加えない範囲で、編集の都合上何回か手を加えざるを得ないことがあり、その都度執筆者の了解は勿論、現役の警察官の著作故に修正箇所が1字でも上司の許可を得る必要があった。(『あびえす』に掲載されたものが後に「奥多摩登山者」として非売品の書籍にまとめられた。)

この課程で、度々お目にかかることが契機となり時にはアフターファイブでのお付き合いもさせて戴く事となった。

峰の^{にってんさま}日天様と^{はやたき}速滝訪問

ある時、旧小河内村出身で奥多摩町に住む郷土史研究会の岡部義重さんの案内で、金さんと共に峰の集落跡から峰入川谷の速滝を案内して貰った。

当時は今と違って、苔むした大尽福島文長宅跡を歩きながら、二人で岡部氏からの解説を聞き、柳田国男が逗留した頃の様子を思んだ。

この日は天気も良く日天神社の前で小休止と昼食をとり、3人とも英気を養った後、まぼろしの滝とも呼ばれる速滝に向かった。

午後は流石、現役の金さん我々ルート(老頭児)を手際よくエスコートしてくれ、3人とも下段と上段の間にある滝壺でしばし速滝の魅力を堪能、今でも懐かしい思い出となっている。



日天様 同左内の祠 上段の滝 下段の滝

皇太子殿下の日の出山登山

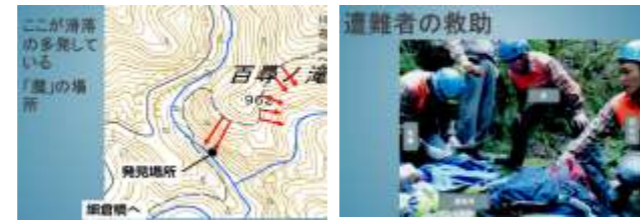
平成24(2012)年11月13日浩宮殿下が御岳山から日の出山に登られ、東雲山荘で昼食の後、山頂を経て沢井の勝仙閣に行幸された。

この時、金さんも警護に当たられていた。殿

下ご一行に山荘内で筆者はお茶を差し上げていたが、金さんとは直接会話することが出来なかった。目配せのみでも互いに心は通じていたことが後日アフターファイブで話題となり、盛り上がったことが今でも鮮明に思い出される。

イオンホールでの登山講演会

平成28(2016)年9月28日夜地域貢献事業の一環として金さんを講師に招き『奥多摩の山岳事故に学ぶ』をテーマとして、登山講演会を開催した。160人以上の山岳関係者が集まる盛況ぶりで金さんの人柄が偲ばれる。



この講演会の準備では、福生のお宅に度々お邪魔し、奥様からも歓待を受けた。金さんのお部屋には、年間約40回以上の救助出動や山岳事故防止啓蒙活動などにより、警察功章、警視総監賞詞、人命救助の功績による警視総監賞など多数の受賞記録が所狭しと掲げられていた。中でも永年のご功績から直前に授与された『瑞寶雙光章』が一段と輝いていた。

金さんからの金言

奥多摩観光協会名人・達人観光ガイドの会発足から25年が経つが、この間に金さんから口癖のように聞かされた言葉がある。

「山に来て鍛えるではなく鍛えてから山に來い」
「険しい下りでのダブルストックは命取りだ」
「山屋は山屋らしくプライドを持って」…

金さんのこれらの言葉を筆者なりに解釈すれば、日々のトレーニングは、自分自身の責任において励むこと。登りで使うストックは推進力になるが、下りで頼りになるのは自分自身の四肢に勝るものはない。街で金さんに会うのは良いが、山岳救助で俺の世話になるようなことでは山屋としてのプライドが廃れる。お蔭様で25年間山岳救助の世話になること無く今日まで来ることが出来た。感謝!

ガイド 富士 光男

次号発行予定：2024年10月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会

来さっせえ奥多摩のバックナンバー
をオンラインでご覧いただけます。



《第74号》

令和6(2024)年

7月15日発行

一般社団法人 奥多摩観光協会



2022.7.21

百尋ノ滝

百尋ノ滝は、奥多摩を代表する名瀑です。高さ40メートルの一段滝で、奥多摩の自然美を象徴するスポットとなっています。滝へは、川乗橋バス停から始まるハイキングコースを通じてアクセスできます。この滝のある川乗谷は清流を楽しめ、四季折々の景観が魅力です。静寂と自然の力強さを感じられる百尋ノ滝は、日常の喧騒を離れてリフレッシュするのに最適な場所です。

周辺は林野庁が指定する「水源の森百選」のひとつに選ばれ、奥多摩の集落で使われる水道の取水地にもなっています。

行って来たあよ

No. 3 4月25日(木)開催

しょうやま

城山(759m)・鍋割山(1084m)の新緑を訪ねて

青空の見える良いお天気に恵まれた。というか、むしろ暑すぎるくらいで、熱中症注意の案内すらあった。さて、登りがなかなかキツめの城山を、ゆっくりペースで登り始める。針葉樹林の暗い森を、古の炭焼き人夫に思いをちょっとだけ馳せつつ、森林の匂いや湿った空気ですべてを尖らせ、植物との出会いに鼻歌まじりで一歩ずつ登る。



鳩ノ巣駅から城山方面

城山山頂に着いた頃には、疲れきってしまった方もいて、皆で思いやりながら歩く。そんなこんなで、道中クイックチャージに最適な食べ物について話したりなどした。ガツンと入れる

とパワー爆発する食べ物についての考察です。バナナにコンデンスミルクとマヨネーズをかけて食べる、というのはどうでしょう。誰か試してみてください。

コースの全体的な感想としては、展望は少なめではあるが、新緑の瑞々しさを堪能でき、爽やかな尾根道歩きから、ちょっとした岩場まで、バラエティーに富んでいました。

何よりも、ご一緒してくださったスタッフさんや参加者さんがとても優しく、面白おかしくおしゃべりしながら登れたのが、楽しかったです。

BOSEのスピーカーから聞こえてくるような高音響でポップと鳴くツツドリつづどりの鳴き声に耳を傾けながらお昼を食べ、フモトスミレ等のスプリングエフェメラルに出会い、何よりも春を待ち構えて芽吹き出した新芽たちが彩り、目に染みるほどの様々なアオを見ることができ感動しました。有難うございました。

友の会会員 島村 香

今回はガイド研修生として参加し、初めて友の会会員の皆さんと一緒に歩きました。日差しが強く4月とは思えない暑さの中、鳩ノ巣駅をスタート。『ココ入っているの?』と思うような登山口から登り始め、いきなりの急登。今回のコース、一番の頑張りどころは城山しょうやままでの登りです。280mの登山口から759.7mの城山まで1時間半程で登ります。ヒガラやシジュウカラの鳴き声を聞きながら、小休止を挟みつつ山頂へ到着。その後、鍋割山までの道程は、峠道なので、多少アップダウンはあるものの、とても歩きやすく、『コレは何スミレ?』『ミツハツツ



城山付近

ジが綺麗ね』と皆さん花を楽しむ余裕もありました。鍋割山から奥の院までの道程は今までと少し雰囲気が変わり、岩が増えてきます。ゴヨウツツジの間を歩いていくと、1077mの奥

の院に到着です。崖にはイワカガミが咲いていたようです。ここまで来れば解散場所の大鳥居までは1時間程。少し急な下りを慎重に降りていき、ちょっとした鎖場を通過して行くと道もなだらかになります。木の根に注意しながら歩いていくと、あっという間に大鳥居です。

参加者の皆さんの感想を伺うと、楽しんでいただけただけで、ほっと一安心です。私もとても楽しく過ごす事ができました。ガイドの知識はまだまだなので、『明るく!楽しく!安全に!』をモットーに精進していきたいと思います。

ガイド研修生 西山 寿恵



御岳奥の院

季節のオススメのイベント

No. 12 9月8日(日)開催

ユネスコ世界遺産 鹿島踊り見学

小河内の「鹿島踊」をご存知ですか?

名称を「国指定重要無形民俗文化財 ユネスコ無形文化遺産 小河内の鹿島踊」と言い、令和4(2022)年11月30日、小河内の鹿島踊を含む「風流踊」(国指定重要無形民俗文化財・風流系芸能41件)が一つのグループとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。

小河内の鹿島踊は、昭和32(1957)年に小河内貯水池(以下、「小河内ダム」)竣工に伴い水没した旧小河内村の日指、岫沢、南の三集落(現在の東京都奥多摩湖畔公園山のふるさと村一帯)の加茂神社と御霊社の祭礼に踊られていました。小河内ダムの竣工により集落の人々は移転を余儀なくされ、暫くの間踊られることもなく、消滅の危機に瀕していましたが、昭和45(1970)年に鹿島踊保存会を結成し、毎年9月第二日曜日に小河内神社の祭礼に踊りを奉納するようになりました

踊りの由来は、京都の公家の落人または旅の僧により伝えられたとも言われています。昔は京都の祇園祭と同じ日に踊られていたため「祇園踊」と呼んでいた時代もありましたが、最初に踊る曲「三番叟」の歌詞に「鹿島大明神様〜」「鹿島踊をいざ踊る〜」が出てくることから、鹿島踊と言われるようになりました。踊りは女装した男性の踊子が6名(三番叟のとき烏帽子狩衣の男子が加わる)、笛2名、太鼓・唄は各1名で行います。小河内の鹿島踊の最大の特徴は踊子が男子女装である点で、他の地域の鹿島踊には見られません。

令和5(2023)年9月から保存会で踊り手をしている父親の誘いで小中学生の兄弟が後継者としてデビューしましたので、当日も観ることができるかもしれませんので、是非、楽しみにしてください。なお、午前中は小河内ダム周辺を散策する予定です。

奥多摩 名人・達人ガイド



鹿島踊



鹿島踊



加茂神社



小河内神社

注1 イベントタイトルは「鹿島踊り」ですが、正式には「鹿島踊」です。
注2 イベント時には「奥多摩水と緑のふれあい館」で見学を行います。